

全国大会への決意語る 津山中野球部が出場報告



全国大会出場報告会では部員一人一人が力強く決意を述べました



1、2年生合わせて12人の部員数ながら、予選を勝ち抜き全国大会への出場を決めた津山中野球部

昨春秋に開催された、第4回全日本少年春季軟式野球大会東北大会で優勝し全国大会への出場を決めた津山中中学校野球部で、布施孝尚市長への報告会が開催されました。

2月10日に同校で開催された報告会には選手や監督、保護者らが出席。12人の部員一人一人が布施市長に全国大会への決意や目標を語りました。

布施市長は「皆さんから力強い決意を聞いた。部員数は少なくても相手に臆することなく正々堂々戦い抜いてください」と激励しました。

全国大会は3月22日から静岡市で開催されます。津山中は、初戦で千葉県の白井市立大田口中学校と対戦します。

若者の活動成果披露 第8回登米市青年文化祭



南方町青年会は、ご当地ヒーローの「大獄戦隊もこレンジャー」で会場を沸かせました

市内で活動する青年会の芸術文化の発表の場として今年8回目を迎える登米市青年文化祭が、2月3日に開催され



迫町青年会は郷土芸能の佐沼鹿踊を披露

ました。今年の会場は石越公民館。大会テーマは開催地にちなんで「意志超祭(いしこしさい)〜ふみだそう!始めるための一歩」です。

今年もそれぞれの地域の青年会が日頃の活動の成果を発表。郷土芸能(創作芸能)の部では迫町青年会が佐沼鹿踊を、豊里町青年会がスコップを楽器にした「スコップ三味線」をそれぞれ披露。舞台発表では南方町青年会がご当地ヒーローの「大獄戦隊もこレンジャー」を披露するなど、若者らしい文化祭となりました。



強風に負けず、手作り風が北上川の上空を舞いました

第50回大会に68組参加 手作り風、天高く

今年で50回目となる「よまあそび大会」が2月3日に開催。会場の北上川堤防には子どもから高齢者まで約240人が集まりました。風あげに参加したのは、年代ごとに幼児の部、小学生低学年、中学年、高学年、一般の部の5部門68組です。

当日は晴れたものの風が強く、風をあげるには少し厳しい状況。それでも参加者は手作りした風を、それぞれ北上川に向かってあげ、糸を操っていました。

大会では、部門ごとに「微笑ましいで賞」「アイデア賞」「デザイン賞」「高く上がったで賞」の審査・表彰が行われました。



大会では、風のあがり具合やデザインが審査されました

県警本部長から賛辞 交通死亡事故ゼロ6カ月達成

市では、今年1月31日をもって、市内における交通死亡事故ゼロ6カ月を達成。このことに対し、県警本部長から賛辞が贈られました。

2月1日に市役所で行われた伝達式には、市や市内交通安全関係者など約10人が出席。佐沼警察署の内海裕之署長が布施孝尚市長に賛辞を伝達し

「死亡事故ゼロ6カ月の達成は市と関係機関の努力のたまもの」と述べました。

布施市長は「交通事故は被害者だけでなく、多くの人が人をつらくないよう関係機関一体となって努力したい」と、

いつそうの取り組みを誓いました。

多くの命救う救急車

寄付の(株)ウジエに感謝状

食品流通・販売を市内外に展開する株式会社ウジエスパー(氏家長典社長)が市に救急車1台を寄付。市では2月1日に感謝状を贈りました。

同社が、昨年2月に収益の一部2000万円を救急車購入の資金として市に提供し、市が車両を購入したものです。車両は高規格救急車といわれ

るもので、監視モニターや人工呼吸器などを備えています。同社で行われた感謝状の贈呈式で布施孝尚市長は「今回の救急車整備は、われわれにとっても市民にとっても大変心強うれしいこと」と謝意を述べました。寄付された救急車は市消防署に配備されます。



寄付された高規格救急車(左から布施市長、(株)ウジエの氏家長典社長、市消防本部の菅原輝雄消防長)



県警本部長の賛辞を手にする布施市長(中央)と市内交通安全関係者